

令和3年度 淀川管内水害に強い地域づくり協議会 (京都府域) 首長会議 議事概要

日 時：令和3年6月29日(火) 15時00分～16時40分

場 所：Web方式(Zoom)による開催

【出席者】

松村 宇治市長	奥田 城陽市長	堀口 八幡市長	河井 木津川市長
信貴 久御山町長	西谷 宇治田原町長	中 笠置町長	堀 和東町長
杉浦 精華町長		松村 淀川・木津川水防事務組合管理者	
染谷 (独)水資源機構関西・吉野川支社 淀川本部長		内藤 気象庁 京都地方気象台長	
富山 京都府 建設交通部長		山口 京都府 京都土木事務所長	
村田 京都府 山城北土木事務所長		渡邊 京都府 山城南土木事務所長	
片岡 京都府 南丹土木事務所長			
藤原 淀川ダム統合管理事務所長		三戸 淀川河川事務所長	

(以下代理出席)

南丹市 副市長	大山崎町 副町長	井手町 副町長	南山城村 参事
京都市 危機管理監	亀岡市 危機管理監	向日市 防災政策監	長岡京市 危機管理監
京田辺市 危機管理監		京都府乙訓土木事務所 課長	
淀川・木津川水防事務組合管理者 事務局長	淀川・木津川水防事務組合管理者 事務局長		
淀川右岸水防事務組合管理者 兼 桂川・小畑川水防事務組合管理者 担当部長			

■議題

1) 淀川管内水害に強い地域づくり協議会について

- ・ 規約改正及び取組方針の見直し
- ・ 令和2年度の活動報告
- ・ 住民の水害に対する意識調査

2) 意見交換

議題①：河川管理者からのホットライン

議題②：広域災害における情報共有とタイミング

【開会挨拶】

- ・ 本協議会は、平成16年から各市町と一緒に地域を守るということで、防災、危機管理意識の向上、ソフト対策の充実等を図るために設立された。また、平成29年6月の水防法改正で、それに基づいた位置づけにしたところであり、皆様方には、これまでの会

議の運営や対策等に協力いただいている。

- ・本日は、コロナ感染症対策下ということで、Web 会議であるが、そんな中でも災害はやってくるときは非常に大きなものがやってきてしまうため、本日、多くの首長の皆様方に参加いただいて、この場でいろいろな意見交換ができればと考えている。今年度も近畿は無事でよかったなとなるかもしれないが、一方で台風が来るかもしれない、高潮等も連動した非常に大きな災害も考えられるし、最近は局所豪雨というもので線状降水帯によるものが来たりすることも大いにある。そのときにどういった情報交換を行って人々に避難いただくか、また事前に防ぐか等をしっかりとこの場で意見交換できればと考えている。ぜひ皆様方からご意見を頂戴したい。

【河川管理者からのホットラインに関する意見交換】

<宇治市長>

- ・宇治市の特徴として天ヶ瀬ダムの 3km 下流に市街地が存在している。
- ・河川管理者からのホットラインについては、宇治川の水位は天ヶ瀬ダムの放流量による影響が大変大きいことから避難情報の発令に当たっては重要な情報となっている。
- ・法改正の前では異常洪水時防災操作いわゆる緊急放流の実施の可能性が出た段階で連絡をいただいて、高齢者避難、また緊急放流の 3 時間前に避難勧告、1 時間前に避難指示を発令していた。今回の改正において 3 時間前、今の避難勧告の時点で避難指示を発令していきたいと考えている。
- ・緊急放流の実施の可能性が高まった段階だけでなく、もっと事前から天ヶ瀬ダムの状態や予測も含めて情報提供していただけると準備を含めて避難指示を発令しやすい。
- ・天ヶ瀬ダムの再開発の完了によってダムからの放流量や宇治川の水位が大きく変わると思うので意見交換させていただきたい。

<城陽市長>

- ・城陽市は西側に木津川が流れており、市の西側が浸水区域になっているため西側から東側へ大きく避難する必要がある。
- ・要援護者が多いため、避難判断水位の見直しが必要なのは重要な問題であるので淀川河川事務所と調整を図っていきたいと思っている。
- ・城陽市としては、氾濫注意情報を基準として避難所の開設を開始し、高齢者等避難の前には完了させたいと考えている。

<八幡市長>

- ・災対法の改正に伴いレベル 3 で高齢者避難となる。
- ・木津川の場合上流域の高山ダムの放流については加茂水位観測所から約 3 時間で八幡

市へ到達すると思っている。

- ・しかし、レベル 2 の氾濫注意情報発令の時点では、今後の見通しや体制判断のための情報の連絡をいただきたい。

<木津川市長>

- ・木津川市の特徴として、加茂、山城、木津の各地区について木津川の水位に時間的な差がある。また、天井川が6川、樋門が9箇所あることから、高山ダムの放流をみながらいろいろ考慮していく必要がある。
- ・木津川市のタイムラインでは6回のホットラインをいただく予定となっている。このうち災害対策本部の2号動員に合わせたホットラインをいただくことになっているが、追加で避難準備発令水位の到達の前に水位予測情報として1時間前に情報提供していただきたい。
- ・可能であれば、警戒レベル3 高齢者等避難発令の参考となるホットラインもいただきたい。

<久御山町長>

- ・久御山町では地域防災計画で定めている河川毎の洪水の予報水位を基に、近畿地整や気象台からの情報を総合的に見て避難情報を発令している。
- ・警戒レベル3については従前の避難準備・高齢者等避難のタイミング、警戒レベル4については従前の避難勧告のタイミングで情報発信を考えている。
- ・そのため、ホットラインのタイミングとしては1段階前に必要になると考えているので、検討をお願いしたい。

<宇治田原町長>

- ・災害対策基本法等の改正により避難勧告と避難指示が一本化され、今までより早い段階で避難指示を発令することになる。その発令のタイミングを判断することがこれまで以上に重要である。
- ・避難される方の準備だけでなく、行政も職員の出動動員、避難所の開設や避難情報の周知等、準備に大変時間を要する中、早い段階で例えば1時間後には避難判断水位に達する見込みといった予測情報をぜひとも提供していただきたい
- ・宇治田原町には国管理河川はないので、京都府と連携を取りながら住民の生命を守っていきたいと思っている。河川管理者からの早い情報は、避難情報を発令するうえで非常に重要であり、このホットラインの構築は大変ありがたい。

<笠置町長>

- ・笠置町の状況は、高齢者が50%を超えており、できるだけ早急に高齢者、要介護者の

避難を考えないといけない。

- ・そのためには木津川の上流域での氾濫の情報をいち早く出していただけると避難指示、避難所開設等、対応をきちんとやっていけるのではないかと考えている。
- ・情報の共有と情報の発出は表裏一体ですが、できるだけ早急に対応策を講じていく必要があるので、1 段早い情報の提供をお願いしたい。

<和束町長>

- ・災害対策基本法の改正により避難指示を発令するタイミングが早まったことから、河川管理者からのホットラインのタイミングも早めていただきたい。
- ・ホットラインの情報を参考に、避難情報の発令のタイミングに迷いがなく、スムーズな判断ができると非常にありがたい。
- ・リモート会議の活用は周辺自治体の情報共有として有効であり、宜しくをお願いしたい。

<精華町長>

- ・1 時間で避難を完了させるのは絶対に無理である。その対象地域の住民は約 2000 名であるが、障害者や自宅療養者が約 1000 人である。この方々が消防団員や自主防災会の方々と共に自主的に避難所へ避難しなければならない。
- ・妊産婦や乳幼児が 750 名である。こういった方々への避難の周知は、人数も必要なので、1 時間でレベル 3 を完了させるのはとても無理だと考えている。

<南丹市（副市長）>

- ・ホットラインは大変重要だと思っているが、南丹市は日吉ダムを擁する一番上流域に位置する市なので、日吉ダムの状況もいち早く下流域の住民に伝えられるようなシステムをお願いしたい。
- ・ダムの状況がどうなのか。今から 3 年前に緊急放流をするかしないかというところのタイミングの情報が下流域の方にとっても大きな参考になると思う。
- ・避難指示は、3 年前の経験からは 1 時間前や 2 時間前を基準とするということに加えて、日没時間も十分に加味しながら発令する必要がある。
- ・暗くなってからでは消防団の活動が非常に危険になりスムーズに進まないということもある。特に在宅している方の確認等も夜はなかなかしにくい。

<大山崎町（副町長）>

- ・本町は、宇治川、木津川、桂川の 3 川合流部付近に位置しているので、河川上流のダムの放流による影響を大きく受けることになる。そのため、引き続き可能な限り速やかに正確な情報発信をお願いしたい。

<井手町（副町長）>

- ・高齢者等が避難する前の段階で避難所等を開設する必要が出てくる。それについては、現在のところ、木津川の避難判断水位から 1m 下がった水位に到達した段階で活動を開始することになっている。
- ・そのタイミングでホットラインの情報が入れば、その時点での必要な助言とか、それから今後の予報なども直接聞かせていただけるということになるので、ホットラインのタイミングを 1 段階前の段階にさせていただくことが非常に有効ではないかと思っている。

<淀川河川事務所長>

- ・さまざまなご意見ありがとうございます。水防法の改正等により避難指示という形になったことで、我々もそのための情報をしっかりと出していく必要は非常に感じている。空振りを恐れずに、極力正確な情報を早めにと考えている。
- ・先ほどほぼ皆様のご意見の中に、1 段階早く情報が必要だという話もあった。その段階、段階をどういった形で出せるかというのは、いろいろ過去の事例等、ケースを確認しながら、1 段階前に出せるように工夫ややり方を考えていきたいと思う。
- ・特に避難に時間がかかるという意見があったので、なるべく早めに、また今後の状況を合わせてお知らせできるようには考えていきたい。大変貴重なご意見ありがとうございました。

【広域災害における情報共有とタイミングに関する意見交換】

<宇治市長>

- ・近年の自然災害、豪雨の状況を見ると、災害の規模が大きくなる傾向が非常に危惧されるので、広域避難についても視野に入れながら検討していく必要があると思っている。
- ・近年の水害では、近隣市町だけではなく府県を跨ぐという状況にもなる。
- ・大きな台風については水位ではなく雨量で避難情報の発令を考えていく。
- ・宇治市は天ヶ瀬ダムがあるので、京都府の市町の情報だけでなく滋賀県の状況も加味する必要があり、どの範囲を広域避難と捉えるかが重要である。

<城陽市長>

- ・昭和 28 年の台風 13 号では宇治川が決壊し、城陽市の寺田まで浸水し非常に怖い経験をしている。ずいぶん年数がたっているので、市民の方々に紹介しないといけない。
- ・市として避難体制を取ることや、他の市町との支援を検討する必要があるので、情報共有は非常に大事である。
- ・そのためには、空振りの可能性があっても、破堤や越水の可能性が高まった場合には広

域的に予想される時間、地域、範囲などについての情報を迅速に提供していただきたい。

<八幡市長>

- ・広域災害における情報共有については、木津川の氾濫では水位と、雨量を重視していく。
- ・京都京阪バスは浸水地域に営業所があり、バスを避難させなければいけないが、八幡市は京都京阪バスと協定を結んでおり、市民の避難にバスを提供していただくことも視野に入れている。
- ・そのため、大体 1 日から 12 時間前には避難指示や多くの皆さんの広域的な避難は決断しないとイケない。
- ・水位、雨量、さらには台風の場合は最接近の時間も加味して判断していく必要がある。
- ・リモート会議は、ぜひ開催していただいて情報共有を図りたい。できれば台風等の場合、最接近時刻の 12 時間以上前に木津川が氾濫するかどうかという情報をいただければありがたい

<木津川市長>

- ・広域避難については、今後検討がさらに必要であるとは考えている。
- ・木津川市では木津川の氾濫により市内の広い地域で相当数の避難者が発生すると予測している。この避難者の安全を確保するためにも、広域避難は有効な避難手段の 1 つだと考えているが、京都府や、また避難先の自治体との調整や、移動手手段の確保、市民への周知や十分な避難準備が必要であると考えている。
- ・木津川市には結構高台が周りがあるので、まずは高台に避難するか、奈良県も隣ですので府外へ行くか、ウイングさんとも輸送に関する協定を結んでいるが、いつの段階で市民に周知するかというのが一番大事だと思っている。
- ・広域避難をする条件は、災害の発生のおそれが非常に高いということで、国の災害対策本部がまずは設置される。そして雨量や水位に関する予測情報が発災の約 1 日前ごろから継続して提供していただくことが前提だと考えているので、できるだけ早い段階で情報の提供をお願いしたい。

<久御山町長>

- ・久御山町は木津川と宇治川に囲まれて、外水氾濫の際にはほぼ全域が浸水する。昭和 28 年の水害では 1 カ月以上にわたって全域が浸水したという苦い過去がある。
- ・こういった浸水の予想がされるために、高層建物への垂直避難、もしくは町外に避難するという広域避難が必要であるということを考えており、氾濫する可能性が出てきたタイミングで何時間後に氾濫するのかという情報が必要である。
- ・線状降水帯等の停滞でダムの情報も含めて現在のタイムラインの想定よりも急激な水位の上昇や降雨量が想定されるのであれば、タイムラインに反映していただき、より正

確な判断につなげられればと考えている。

- ・また、破堤、越水箇所予測、浸水速度予測が可能であれば、事前に情報提供いただくことで高所への垂直避難、もしくは広域避難か、避難をする場合どの方角に避難すべきかの確に対応判断ができると考えているが、そういった情報の提供をいただくことができるかどうか伺いたい。
- ・加えて、避難指示を出す地域を細分化して限定できれば、パニックや避難者の殺到による渋滞の回避ができて、スムーズな広域避難が可能となると考えている。地域細分化や限定ができるかどうか、そのような予測が可能かどうか伺いたい。

<宇治田原町長>

- ・本町には国直轄の河川がなく、本町と隣接市町を跨ぐ河川氾濫の想定はされにくいですが、近隣自治体と情報を共有できるのは非常にありがたく、参考となる。また、それによって判断もできると思うので、特に避難情報の発令や避難所開設の情報、また、災害情報も共有できるので、よろしくお願ひしたい。

<笠置町長>

- ・笠置町は中央に木津川が流れており、山林が非常に多い。80%が山林であり水害だけではなく、土砂災害のことを考えないといけない。避難道路の確保や避難場所の確保に苦慮している。
- ・広域避難も当然考えていく必要がある。現在、和東町と南山城村との間で災害時の相互支援協定を締結するために話し合いを続けている。人の派遣、物資の派遣、情報の提供や避難者の受け入れなどを含めた協定の内容となっている。
- ・大きな災害が来たときに、まずは道路の確保が非常に気になるが、先ほど未発災の話があった。近年では、昭和61年に道路が全部寸断されて、JR、電話、水道、電気などの全部のライフラインが被害にあったという非常に苦しい経験をした。そうした経験に基づいて住民にできるだけ安全に避難していただく取組を今後も進めていきたいと考えている。

<和東町長>

- ・木津川が氾濫すると、木屋地区を通る国道が冠水して、住民が避難できなくなるおそれがある。笠置町、南山城村と災害時における相互支援に関する協定を結ぶ準備をしており、広域避難についてもその内容に含まれている。
- ・こうしたことから、できるだけ早いタイミングで木津川上流域の水位情報や予測降雨量などの情報共有をお願ひしたい。

<精華町長>

- ・皆さんと同様に、できるだけ早い段階での判断が必要だと思っており、降雨量を基準にしてということであれば、統一をして淀川水系全体で災害に対応、準備をする。
- ・私どもがホットライン等で伺いながら、より上流域にある者は早く避難をすとか、正確な降雨量の状況把握であるとか、先ほどアンケートでは市民がスマートフォンのデータを見て避難をすということであったので、そこへ今が避難どきですよ、早くですよということ言っただけだと市民への広報がうまくいくのではないかと思っている。
- ・自治体としては、長期間避難所を開設することになると負担になるが、空振りを恐れないのと一緒に、長時間、早期から準備をすることが大切だと思っているので、できるだけ情報は細かく、降雨量等もいつまで続くのか、今日の沖縄のような線状降水帯の注意報も出していただけるとありがたい。

<南丹市（副市長）>

- ・できるだけ早い段階での判断というのが必要だろうなと思っているが、降雨量についても、そこを基準にしてということであれば、淀川水系で統一をしていただき、ホットライン等で伺いながら、より上流域にある者としては早く避難をすとか、正確な降雨量の状況把握であるとか、把握していきたい。
- ・また住民がスマートフォンで情報を収集するというアンケート結果を踏まえ、市民に今が避難どきですよと広報することで上手く避難ができると考えている。
- ・自治体としては、長期間避難所を開設するという事になると負担にはなるが、早期から準備をすることが大切だと思っているため、できるだけ情報は細かく、降雨量等もいつまで続くのか、今日の沖縄のような線状帯のような、そういう注意報も出していただけるとありがたい。

<大山崎町（副町長）>

- ・広域避難についてはまだまだ検討課題が多い。一方、近年の災害の大規模化を考えると、広域災害における情報共有のタイミングは、空振りをおそれずに踏み込んだ提供をしていただくことが重要であると考えている。

<井手町（副町長）>

- ・広域災害の発生が予想されるのはかなりの雨量が予想され、特別警報が出ているような状況と判断するが、そういった場合には、国や府で降雨予測から河川水位を推定した情報の提供をしていただき、各流域の災害が発生しやすい場所や、時刻等についてできるだけ早いタイミングで情報の提供をお願いしたい。
- ・最低でも半日前には情報が欲しい。

<京都気象台長>

- ・早い段階での情報が欲しいとのことだが、量的な部分を早い段階でお示しするのが今の段階で非常に難しい。
- ・台風に関する特別警報であれば結構早い段階から出ていくという形もあるが、通常の大雨の特別警報では、かなり接近してからしかわからないという部分であったり、場合によっては特別警報が出ないままに雨が降ってしまっているということもある。
- ・これからもう少し精度を高めていくところで、具体的な数字は中々出せないが、引き続き、皆さんと協力しながら対応していきたいと考えている。

【その他】

<京都府情報提供>

- ・京都府では、水災害に関する情報の充実強化に取り組んでおり、水位計と監視カメラを大幅に増設しました。これらの情報は、ホームページで閲覧可能となっておりますが、市町村の皆様には、出水期前に実際にこうした機器の設置場所を確認していただきたいと思っております。災害対応には、どの場所がどういう状況になっているかを具体的に想像できることが重要と考えます。
- ・また、今年度より中小河川においても避難のリードタイムが確保できるよう、予測雨量から6時間先までの河川の水位や氾濫区域を予測するシステムの開発に着手したところです。システム開発は、京都大学防災研究所と共同研究により、最先端の研究成果を取り入れながら進めることとしており、今後は、府からの情報発信を有効に活用していただき、各地域の防災に役立てていただきたいと考えています。

【閉会挨拶】

<京都府建設交通部長>

- ・この協議会が直轄に加えて京都府管理区間も合わせて開催させていただくことになり、水系全体の連携強化につながっていけばと期待しています。
- ・防災業務の一番大事なところは、迅速、的確に情報を集めて必要なところに伝達することだと考えています。そのためのいろいろな技術も発展してきているところであるが、最後には現場、市町村長さんの判断によって、住民の方にどう伝えるかで最後の勝負が決まってくるので、これからも関係者の間で情報共有がしっかり図れるように進めていけたらと思う。

以上